

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所より、地域との連携の中で、心から助け合い、共に喜びあえることを理念としてきました。管理者と職員は理念を理解し、日々の生活支援に取り組み、理念の実現に向けて努力している。	毎月のミーティングで日々のケアを振り返り、理念に沿った支援が行われているかどうか確認している。職員は話し合いを持ちながら共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設の一部をオープンガーデンとして開放したり、サン祭りや収穫祭等で、多くの地域の人々との交流が実現出来た他、ボランティア団体の受け入れを積極的に実施し、更に近隣地域の方々との交流が深まっている。	ホームの行事である「サンまつり」や「収穫祭」は地区の恒例の行事となり参加者も年毎に増えている。ホームの庭を開放する「オープンガーデン」で地域住民とも交流し、多種多様なボランティアも来訪している。「認知症サポーターキャラバン」事業を通じて小学生との繋がりもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申し込みや見学に訪れた人々より困っている現状をうかがった時は、理解者になるように努めている。又、地域住民の集まりに出向き高齢者の生活や介護の相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者には、施設の運営理念の理解と、ボランティア活動の参加からも積極的に意見をいただいている。そこでの意見を受け止め、また励みに、サービスの向上につなげている。	会議は隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と共に年6回の予定で開催されており、参加メンバーも積極的に意見・要望を伝えている。会議を通じて地域との関わりやサービスの質の向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、事業所の実情・ケアサービスの様子を伝えたり、行事に参加頂く他、重度化、ターミナルケアへの取り組み課題の解決に向けて連携を図りながら協力関係を築いている。	看取りが行われる際に書類の整備について市の担当職員と相談したり、介護認定調査員とは変更届などの情報交換をしている。理事長は依頼を受け市町村主催の勉強会や地域の集まりに出かけ、講師として認知症介護についての理解や普及に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は全員が周知している。日中、危険が生じる心配がある時以外鍵をかけない工夫をしながら、身体拘束をしないケアにつなげている。	スタッフ会議等で拘束の話があり職員は内容や弊害について十分理解している。外出傾向のある入居者とトイレ・オムツ介助の入居者が重なったときなどには一時的にドアを閉めることもあるが家族には承諾を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権を大切にすることを理念として取り組んでいる。特に、心理的虐待に当たる、子供扱いするような言葉掛けには、注意していくようにしている。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を実施し、職員は学習をする機会を持った他、成年後見制度を活用している利用者がいることで、理解を深める事が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、重要事項説明書、運営規定を提示してサービスの説明に当たっている。特に介護サービスの利用が初めての方には配慮している。書面の字体も見やすくしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時出される意見や要望は、しっかりと受け止めている。職員からも積極的に話題を向け、利用者、家族の思いを汲み取り、検討し、介護計画や行事に生かし、改善に努めている。	家族会「里の会」が毎年敬老の日に食事を兼ねて開かれ、家族が集まり懇談している。面会時には職員が家族に積極的に話しかけるなど話しやすい雰囲気作りをしている。ホームの「サンだより」が毎月発行されており、日々のくらしのスナップ写真やコメントが載り家族にも好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長、管理者は、職員と話す機会を常に持ちながら、多くのことは、会議等で話し合った意見を元に決めている。	月一回のスタッフ会議やカンファレンス会議、通常の申し送り等の中で「気づき」を大切に全職員で課題を共有し対策を立てている。昼間行なわれるスタッフ会議の際にはボランティアの協力などを得て全職員参加のもと気軽に意見を出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は毎日現場に来ており、利用者や職員と過ごし、職員の勤務や悩みを把握している。職場環境、条件の整備は積極的に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	参加出来る研修を紹介し、希望する職員には、公平に参加出来るようにすすめている。研修の内容は、スタッフ会議に報告し、全員で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣のグループホーム管理者と交流の機会を持ち、意見交換をしている。職員同志の相互訪問交流もある。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問したり、体験で来所頂き、顔なじみの関係づくりに心がけたり、話を聴く中で、本人の考えや思いを知り、受け入れる体制を整え、安心して利用頂けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で家族の状況、思いをしっかりと受け止め、ホームの出来ること、家族に協力いただきたいことを明らかにして、力を合わせての関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい場所にも心がけながら本人や家族の意見や要望を受け止めるようにしている。話し合いをする中で、ホームで出来ること、出来ないことを確認しながら、解決に向けた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は共に過ごした年月の中で。「共に過ごし、喜び、支えあう」関係が築かれ、一緒に過ごす時間を楽しみ、又それが大切なことを感じており、感謝の言葉を伝えることを忘れないように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族が心を寄せ合いお互いに支え合うことがどんなに大切かを理解している。職員は、本人、家族のそれぞれの思いを受け止め、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂き、馴染みの美容院やお墓参りに出かける等、関係が途切れないように支援に努めている。	遠方の孫からの絵手紙に喜んだり、家族と昼間家に帰り仏壇にお参りしたり、毎月兄弟が集まる食事会に出かけるなど入居前からの関係の継続が行われている。面会が遠のいている家族には葉を届けてもらったり、介護認定調査の折に同席をお願いするなど来訪を促す工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係の把握に努めている。気持ち良く関わり合い、支え合えるように、折々の場面において工夫し配慮している。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族と連絡を取り合い、必要に応じた支援に努めた。又、要望に応じて再会の機会が持てるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月実施しているグループカンファレンスや全体カンファレンスにおいて、日々の関わりの中で得られた本人の思いや暮らし方の希望や意向を職員全員で確認し、その実現に努めている。	朝起きたらカレンダーをめくったり、カーテンを開けたり、新聞を畳んだりと入居者が自発的に行っている。日中も「何かやることない?」と職員に問いかけ、思いを表わす入居者が多い。意思の伝えられない場合は声がけをし、それに対しての表情や返事から汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の歴史やサービス利用の経過について出来るだけ情報を頂くように努めている。日々の暮らしの中で、本人から教えていただくこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりがそれぞれの生活リズムを持ち、生活されていることを理解している。センター方式シートを活用し、出来ることの継続に努め、支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はグループカンファ、ケア会議、家族の意見を交えながら、本人の思いや意向に添えるように取り組んでいる。カンファレンスシートの検討により、利用者の思いを大切に計画が立案出来るように努めている。	3人の入居者に対し3人の職員でのグループとしての担当制をとっている。本人家族の意向を基にグループカンファレンスの後全職員でのカンファレンスをし計画作成者によって介護計画が立てられている。見直しは毎月行っているが状況や意向が変わった場合には現状に即して作り替えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の行動、言葉を受け止めた職員のケアの実践や気づきが分かりやすく記録に残るように記録用紙を検討し、更に介護計画の見直しに活かせるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者家族の状況や要望により、受診、買物等外出の付き添いや認定申請書の提出代行等柔軟に対応している。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員や様々なボランティアの方、ご近所の方の力を借りて、豊かで楽しみのある暮らしが支援されている。又、運営推進会議の参加を機会に老人会との関わりも出来ている。認知症キャラバンメイトの一環として、小学生との交流も出来、利用者は大変に喜ばれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は、本人、家族の希望を確認して決めている。かかりつけ医との関係が継続できるように、本人、家族の状況と意向に沿い、医療支援している。	入居時のかかりつけ医となっている。予防接種等は協力医で行われている。毎朝の検温、排泄や食事の確認が行われている。家族の都合がつかない時の受診については職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常に利用者の健康管理や状態の変化に応じた支援をしている。看護師が不在の時、体調の変化に気づいた時はただちに看護師に報告し、対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の指示、家族の意向に出来るだけ添い支援している。利用者の状況に応じては、早期退院が出来るように、地域連携室と連携を図りながら支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を踏まえ、状況に沿って家族、主治医と連携を図りながら取り組んでいる。家族の支援者の意思統一も重要と考え、協力体制を整え、全員が気持ちを一つにして取り組めるように努力している。	事業所の方針として最期まで看ることが明文化されており、運営規定や重要事項説明書にも掲げられている。開設以来8年目となるが3件の看取りが行なわれた。家族、医師、職員の綿密な話し合いにより意思統一がされている。看取りが行われる過程で状況の変化から家族も終日ホームに詰め、職員と家族の信頼関係が大事なことをその都度認識し直している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当で蘇生術の研修を実施したり、誤嚥等に対応した施設内研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消火訓練、緊急連絡網実施訓練は、定期的実施している。今年も、地域の消防団、隣人の方にも参加していただき、避難経路の確認、利用者の誘導を行なった。いただいた。	定期的に昼・夜想定での防災訓練を実施している。この秋には地域住民の協力を得ながらホーム外への誘導も実施した。また職員間では通信網による訓練が随時行われている。スプリンクラー設置の工事も始まり、今年中に完了予定である。	車椅子での退避や避難時間等、訓練を通じて色々得ることも多いものと思われるので出来る範囲で入居者参加の訓練を実施していただきたい。

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時、目立たず、さりげない言葉掛けで、対応に心がけている。職員は尊厳、権利の遵守を常に念頭におき、お互いに注意しあいながら業務についている。	会議の中で理事長はじめ全職員が守秘義務などについて確認をしている。トイレ誘導も「一緒にむこうへ行きましょう!」とさりげなく声がけしている。呼びかけは苗字で「〇〇さん」と呼んでいるが、入居者が長年周りから「ちゃん」づけで呼ばれてきた場合には名前に「さん」をつけ呼ぶようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で意思表示出来る方には、必ず本人の意向を確認している。言葉以外の反応からも本人の希望や好みの把握に努め、自己決定の場を得ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしに基本的な流れはあるが、日々一人ひとりのペースを見守り、要望や状況に合わせての対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、本人の好みや意向により決める他、その日の気温や状況に合わせてアドバイスしている。定期的に美容院に出掛けている利用者もいる。又、ボランティアの協力で化粧を楽しむことが出来た。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえや、テーブル拭きを役割として、積極的に取り組んでいる人、食事のメニュー表を確認して、食事を楽しみにしている人もいる。	事業所の畑から獲れるかぼちゃ、ナス、大根などを使い、入居者の意向を取り入れた見た目にも食欲をそそる献立となっている。ミキサー食やきざみ食が必要な入居者も完食している。訪問調査時も色々な話題が上り笑顔の昼食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況や希望に合わせて、ミキサー食、とろみ食を取り入れながらも、美味しく食べられるように、好みの物を加えている。水分量の確保には、十分に配慮が来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に合わせた声掛け、介助をすることで、食後の口腔ケアが出来ている。口臭の改善も出来ている。		

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを確認する他、落ち着かない仕草等、利用者の様子を見逃さないことで、タイミングの良いケアが出来るように心がけている。入所前の生活習慣に合わせてポータブルトイレを使う等、一人ひとりの排泄環境を整えるように努めている。	排泄チェック表を基に自尊心に配慮し、入居者の様子から察知し身体機能に応じて支援している。トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取は、利用者の状況に合わせて、起床時より一日を通して配慮し、心がけている。おやつに乳製品、バナナ等取り入れる等飲食物の工夫により、便秘の改善につなげている。とろみ調整食品を使い分けることで、便秘が解消した状況もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴出来るようにしている。その日の希望を確認して実施している。着衣の順番等、分からない利用者には、着る順番に衣類を置く等配慮している。	一人があがったら交替ですぐ一人入れるようにし、毎日入浴出来るようにしている。現在、入浴を拒む人はいない。菖蒲湯、バラ湯、ゆず湯など季節を感じながら香りも楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息は、充分とれるように支援しているが利用者の状況や希望により、自由に過ごしていただき、夜間の睡眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用している薬の処方箋は、ファイルにまとめ、いつでも確認できるようになっている。服用時、利用者の状況に合わせての支援をし、きちんと服用できたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に合わせて、新聞たため、掃除、日めくり、カーテン開け等役割を持つことが、自主的な活動へとつなげられている。畑で収穫した野菜の下ごしらえは、楽しみになっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課としている利用者がある。お楽しみ外出を計画し、身体状況に合わせた外出の支援をしている。家族の協力もあり、積極的に出来ている。	開設以来の入居者も多く、歩行能力が低下している方も増えていることから、広い敷地内での散歩や受診帰りの日用品等の買い物日頃の外出の主なものとなっている。家族参加の遠出やドライブでの花見、紅葉狩りも年間行事に組み込まれている。	

グループホームサン・オアシス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、金銭を管理している利用者はいないが、お金を持つことの大切さを理解し、希望する買い物をし、お金を支払う機会を持つことが出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠く離れた孫から届いたハガキを嬉しそうに受け取っている様子等を家族に伝えたり、なかなか面会に来れない家人には協力をお願いすることもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂ホールからは、四季を彩る花々やりんご畑が見え、会話が増え、外への意欲にもつながっている。ホール内の季節に合わせた飾りで楽しんでもらっている。空気清浄器を設置し、室内環境にも配慮している。	色づき始めた林檎やホームを囲んで咲く花々から四季折々の自然を感じ取ることができる。テーブルにはかぼちゃを使った手作りのハローウインの飾り物が置かれており、食事をより楽しくさせていた。家族の励ましを受けて書かれた入居者の書道作品も飾られ、意欲を持ち続けつつ穏やかな毎日を過ごしていることが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから見える景色を楽しんだり、それぞれ気の合う仲間とおしゃべりや、TVを見て過ごす場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力が有り、思い出の写真等が置かれている。好きな動物等のポスターやぬいぐるみを置く配慮をしている。	「私はこの部屋が好きなんです。山も見え、小鳥の囀りも聞こえるんです。」と色々の山の写真を飾った居室があり、花好きだからと息子さんが花の写真を壁一面に飾り花の中に見えるような感じを受ける居室など本人の思いと家族の思いが重なる快適な居室づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、安全で使いやすいように、トイレ内の手すりの増設、畳からフローリングに変えている。		